

## 2006年天津・北京滞在記

2月19日（日）

12時半に、石塚さんに送ってもらってふじみ野駅へ。池袋東武デパ地下の野田岩で昼食をとって成田に向かう。別送して置いた荷物を受け取ってチェックイン。少し時間があったので、共同カード・ラウンジで缶ビールを飲んで休憩。あんなに混んでいるラウンジは初めてだ。

全日空 **NK955** 便は、バスでの搭乗。前便は予約が取れなかったが、この便は空席が目立った。**17:30** 定刻出発。藤沢周平原作の「蝉しぐれ」を視る。機内食は、ビーフ・ストロガノフ。アメリカ会社でないから、ワインはフリー。4時間で北京国際空港到着。現地時間 **20:30**。

入国審査が長い列で、1時間近くかかった。これも初めてだ。検査官はまあ手際よくこなすのだが、外人客が多くなったからだろう。窓口を増やすなどの対応ができないと、オリンピック年が思いやられる。

張さんが出迎えてくれた。去年博士号を取って南開大学日本研究院の専任講師になっている。車中、皆さんの近況を訊く。楊夫人も、名古屋から天津直行便で、今日、帰国されたとのこと。春節の休暇が終わって、明日から、後期日程が始まるわけだ。

11時に專家楼に到着。富山さんと元が出迎えてくれて、1階105号室に入る。2階の元の部屋でビールとワインで乾杯。富山さんも、生活用品を買い整えて、隣室での生活体制ができたようだ。デスク付書齋と寢室の2間に台所、浴室がついて部屋で、暖房が良く効いている。熟睡。

2月20日（月）

8時起床。早起きして西南村に朝食を買い出しに行くつもりだったが、寝坊した。元の部屋で、日本人パン屋の食パンで朝食。甘いのが特徴の中国パンに比べると、かなり良い出来だ。富山さんは、もう初授業に出かけた。

10時、日本研究院で宋副院長、趙先生、劉先生に挨拶。楊院長の留守を守る宋先生は忙しそうだ。最近、政府はマルクス主義研究に力を入れて、社会科学院のマルクス主義研究所を大拡張して、**200**人くらいの研究者を集めつつあるとのこと。**Pang** 副学長も、マルクス主義経済学のリーダーとして、学外での活動が忙しくなられたそう。

宋先生も、最近雑誌やネットの内容が、俗悪化して、ポルノまで登場するようになったことを嘆いておられる。やはり、市場経済化に、節度を求めるとすると、マルクス主義を改めて研究する必要があるということのようだ。マルクスから毛沢東、江沢民までを、ただ反復研究するだけでは、権威主義の強化にしかないだろう。人類史的観点からの再検討ができれば、新しい力になる可能性はあるが。

経済学院の沈先生と再会、明日の夕食を約束。2年前の生き魚レストランにしようとしたら、役員が持ち逃げしたので、倒産したとのこと。いまだに、公金横領は後を絶たないらしい。

昼食は、天津財経大の王湧さんと一緒に、学内の嘉園で取る。嘉園はこれまで来たことのないレストランだ。正面入り口は正門、つまり周恩来像のある側にあり、專家楼からは、裏口が近い。王さんは外国語学院の副学部長になって多忙の身。今年から出る日本語科の卒業生を、日系企業に就職させる世話までするのだから大変だ。大小 **1000** 社近くが天津に出ているから、就職は好調のようだ。3月3日に講演をする約束をした。

元は授業に出かけ、われわれは部屋で昼寝。パソコンを開くが、ネットにうまく繋がらないのが問題だ。日記を書き始める。

6時半、日本研究院の皆さんと、專家楼で夕食。外国語学院長王先生も来てくださる。談論風発、語って日本の少子化原因論に到る。日本人は数も減るし、質も落ちる傾向にあることを話すと、中国でも同じようだとか。人口数からは、日本より10分の1の遅さで劣化するのだろう。

外国語学院で、「日本の会社の光と陰」講演を約束。日系企業への就職希望者が多いとのこと、このテーマにする。

料理は、学長の宴席と同じようなメニューを、宋先生が頼んでくださって豪華。湖水産魚の土鍋蒸しは、ニンニクがゴロゴロしているが、臭わず、美味。餃子も耳付の焼き餃子。毎回、新しい料理に出会えるあたりは、中国料理の奥の深さだ。

外国語学院と天津財経大の講演のレジュメを作って、早寝。

2月21日（火）

朝、恵子と八里台の市場に買い物に行く。東門から7分くらいのところ。焼き餅の引き屋台もあるが、常設の売店が並ぶ。八百屋はまだ開店準備中で、品数は少ない。

豆乳、卵、生うどん、長ねぎ、インゲン、キャベツ、塩ピーナッツに春巻き風揚げ餅を購入。小さいキャベツ2個で **3.6** 元だから、**2003** 年の北京よりも、すこし値段が上がっている感じだ。ピーナッツも1元買ったが、期待したよりも量が少ない。

朝食後は、セミナーの日程表と初回のレジュメを作る。講義時間を日本研究院に電話で問い合わせると、周さんがいて、部屋のラン接続を見てくれるとのこと。すぐに、自転車で来てくれたが、なかなかうまく繋がらない。悪戦苦闘を重ねている周さんを眺めながら、長椅子でうたたね。部屋の暖房がよく効いているので、つい眠くなる。結局、接続ケーブルの問題と言うことで、日本研究院に戻って、午後、出直しと言うことになる。日程表とレジュメをフラッシュメモリーに入れて、持っていってもらう。ランに繋がればメールで送るところだが、ここは半アナログ。

昼食は、元の作った掛けミソで担担麺と卵うどん。元の部屋でランに繋いでメールを読む。辻康吾氏からのメールは、5年間の研究の結果完成した担担麺を、横浜の美食同源フ

フェアで披露するとのこと。**2000**年の中国同行のときから、本場の担担麺を日本に紹介するという話をしていたから、ついに実現したようだ。祝メールを送り、中国訪問中でフェアに伺えない旨を伝える。返事メールでは、彼も明日から数日間北京で、面白い人に紹介するから北京に来られるかという。あいにく、セミナーで天津を離れられないと返事。彼の人間関係では、実に興味深い人たちに会えるから、いささか残念だ。

午後、恵子と富山さんはカルフルに買い物。レジュメの続きを作ったり、また来てくれた周さんの仕事を眺めて午後を過ごす。結局、壁の中のラン配線に問題がありそうと言う結論で、この部屋での接続はあきらめる。周さんには一日無駄骨を折らせてしまった。

買い出しの2人は、無事帰ってきた。今夜のブドー酒など、いろいろ買ってきた。

夜は、沈先生ご夫妻、閻さん、留学中の才媛Wさんと海鮮レストランで会食。まずWさん持参のワイン、次にカルフルで買い込んだワインを飲みながら談笑。ほとんどのレストランが、酒類の持ち込み可となっている。酒はもうかるが、持ち込み不可とすると客が来ないので、店としては痛し痒しだ。Wさんは流暢に中国語を話せる。万葉集と中国の古謡の比較研究が修士論文のテーマとのこと。歌垣のルーツ研究にもなるのだろ。

2月22日（水）

朝食を仕入に西南村に行くが、肉挟餅の売店がなくなった。衛生上の問題でも起こったのか。包丁の刻み目で凹んだまな板で煮ブタを叩いての料理だから、いささか不衛生な感じではあった。鉄板焼き風の焼き餅は、トッピングを注文する仕方が判らないので敬遠。

天津大学の村へ歩く。前は踏み台で乗り越えた鉄柵は、鉄棒を1本切り取った狭いくぐり穴が空いていた。工事中だった学生寮のあたりはすっかりキレイになっている。**2000**年は、学内いたるところ建設工事中だったが、今年は、ほぼ完成していて、日本研究院の裏の運動場に体育館を建てる工事など、**2,3**カ所が継続中だ。

大学院生寮を通り抜けようとしたら回りが高い塀でかこまれていて出られなかった。天津大への抜け道は遠回りになるので、あきらめて、帰室。カルフルのプチ・パンで朝食。

喬さんが来て、馬乳酒をくださった。臧さんに託してくれたブランドとは違うもの。坊やは3月から幼稚園。お手伝いさんは春節から郷里に帰して、母君に来てもらっているとのこと。**120**平方メートルの新居、いまや2倍近くに値上がりしている。無理して買って大丈夫かと心配だったが、先見の明だ。もっとも、給料はそんなに上がっていないから、返済は大変であることに変わりはない。

昼前、日本研究院へ行く。周さんに昨日のお礼を言って、レジュメの参考図表用に「概説」のコピーをしてもらう。**2003**年の遼寧大学国際コンファレンスでお世話になった莽先生と挨拶。経済系院生を受け入れることになって、一昨年から、南開大学日本研究院に赴任してこられた。

図書室で研究中の郭承敏先生にご挨拶、喬さん、博士課程に入学した山城さんも一緒に昼食。授業を終わって富山さんも参加。喬さんの馬乳酒を空ける。乳の香りが残るやや甘

めの酒で、大手のメーカー品。前回のは地方の酒蔵のものだったそうで、あれのほうが地酒のうま味があったと思われる。

日中双方の共産党情報に詳しい郭先生のお話は興味深い。是非、ご経験を記録に残してくださいと願います。少しずつ書いておられる様子で、公刊は差し障りがあるにしても、貴重な記録になる。北京一高会というのがあるそうだ。朱紹文先生とも交流をお持ちで、『経友』に寄稿された朱先生の大河内一男先生追憶文のコピーをくださった。

天津に、北朝鮮の国営焼肉店があって、金バッジを付けた、かの美女たちがサービスしてくれると言う話。こんど、連れて行ってくださるようお願いした。

午後は、レジュメの準備。恵子は元と歩いて買い物。

夕食は、閻さんと大学の向かい側の店で天津ダックを食べる。北京ダックより脂が少ない感じだ。元の話だと、南下するにつれて痩せて野生に近いアヒルになるというのが本当かどうか。閻さんは、4月から早稲田で博士論文の指導を受ける。国費留学生で4年間は費用が支給されることになっている。

2月23日（木）

10時から、第1回セミナー。新しい院生と経済系2年生、劉・張さんも聴いてくれる。新開池の前に新しくできた講義棟の4階の小教室を使った。なかなか立派な6階建ての建物だが、手近にはエレベーターが無い。

資本主義の類型論と発展段階論を話す。1年生のRさんが通訳してくれるが、少し頼りない。複雑な部分は避けて、単純化した話にしたから、理解してもらえたらう。

質問では、経済系の院生から中国は資本主義と思うかと問われた。所有の形態が、国有・共有から私有に変化しつつあること、計画経済から政府規制の強い市場経済へ移行していること、基本理念が平等から私利目当ての競争に変化したことを挙げて、政府主導型資本主義だろうと答えた。

毛沢東思想のなかの平等主義の再認識が必要だと思うがどうかと尋ねると、皆、否定的な顔つきになった。やはり、毛沢東のイメージは文化大革命と結びついて、肯定はできないようだ。ここらが、政府が社会科学院のマルクス主義研究所の拡張を急ぐ一因だ。資本主義的価値意識の浸透は避けがたいから、どこかで、社会主義市場経済の価値理念を再編しないと、巨大な人口を抱えた「ただの資本主義国」になってしまう。

昼食は、部屋で海鮮パスタ。楊先生からメールをいただく。ここの様子を返信。元と進路を相談する。

午後、宋先生にあう予定だったが、急な学内会議のため中止。楊先生の留守役は忙しい。

3人で八里台市場に出かける。朝よりも開いている店が多く、相変わらず面白い。中古の腕時計やテレビ、衣料品、雑貨、そして各種の食品が、雑多に売られている。活魚は、フナ、鯉、雷魚、田ウナギ、背中の盛り上がった珍魚など川魚。海魚は冷凍もののイカ、太刀魚程度。肉は、羊と豚が主で、鶏と牛肉は少ない。狭い通路に焼き芋の引き売り自転

車が入ってくる。チョコレートの量り売りは、**500g**で4元だ。きわめて庶民的な市場。ピーナッツ、ジャガイモ、人参、ペティ・トマト、夏みかんを購入。

帰室して、レジュメ作り。パソコンで中島みゆきを聴くが、音質は最低。ヘッドホンを使ってもダメ。新しい機種は、CD対応能力を備えているのだろうか。

夕方、楊夫人が張さん同道ご来室。お変わりなく、むしろお若くなられたような印象。果物を沢山いただいた。星君は、もう1年、頑張るとのこと。

元の部屋で、レジュメ資料をプリントして、空白にコピー表を切り貼り。元のクラスは、3年生の後半になって、履修生がゼロで閉講が続出した。卒業要件単位は、前半でほぼ取りきり、追加単位には課金される制度になったために起こった現象らしい。王先生は、閉講分は、卒論指導を増やすことで処理する方針とのこと。授業をやる気だったので、拍子抜けしているのが可笑しい。負担軽減は歓迎すべき事態だ。

ポーク・シチューで夕食。元は、帰国留学生の送別会に、ブドー酒を抱えて出かけた。中華は飽きて、タイ料理とか。富山さんは、教材の出来が悪いのを指摘。やはり、教材開発に、もっと力を入れる必要がある。創価大の守屋先生のような仕事が大変だ。元が制作中のテキスト「日本商務」は役立つ。喬さんに「日本政治」の良いテキストはあるのか尋ねたが、無いようだ。「日本経済」も遼寧大の金先生の編著があるが、中国語研究書でテキスト向きではない。日本語教育用語学テキストは多いが、ここらは、ニッチ市場だ。

後かたづけは2人にまかせて、帰室。ワインの酔いにさそわれて早寝。

2月24日（金）

早寝したので4時に目覚めて日記を書く。浜海学院授業用レジュメも作成。

6時半に散歩。天津大を目ざすと、連絡通路あたりは、古い煉瓦造り平屋の住居が立ち退き取り壊し中で、古着や古家具が煉瓦屑と一緒に散乱している。作業員住宅や簡易食堂があり、屋台も出ていた場所だが、再開発するらしい。

天津大專家楼のわきから西門を抜ける。池は氷結していて、釣り人は居ない。四季村の市場へ向かうが、見あたらない。来すぎたかと引き返すと、昔の横町の脇に大きな建物がある。中を覗くと、常設市場だ。横町に並んだ古い店々は取り壊されて、ここに集中したらしい。豆乳、焼き餅2種、饅頭を購入。簡易食堂や野菜露天商、鉄板焼き餅屋が軒を連ねていた昔の活気はない。ありきたりの集合店舗になってしまって面白くない。

帰路、煉瓦廃墟を撮ろうとカメラを構えたら、饅頭を落とし、拾うときに豆乳のビニール袋がなにかに刺さって小穴が開いてしまった。豆乳をしたたらせながら、日本研究院近くまで歩き、減った袋の位置を変えて漏れを止めて帰室。

朝食後、日本研究院で宋先生と話し。今夜の夜行寝台で上海の会議に出張の由、昼間の飛行機で飛ぶ時間的余裕もないようだ。日本研究院裏には中国大学一の体育センターができる。国際競技標準のプールと屋内体育場を備える設計で、かなり工事は進んでいる。大学予算の半分は国庫負担だが、残りは自己調達で、銀行からの借入で建築を進めていると

のこと。体育センターも、貸料収入を見込んでいる。

元は、教室へ。帰室してレジュメ作り。昼食は、チャーハン。

2時から外国語学院で講演。中規模の階段教室が満席。王先生が紹介してくださって話し始める。元が、もっとゆっくりとのサインを送ってくるのでテンポを変える。「社員」の意味から、会社の歴史、5つの資本主義、日本の会社の特徴、日本文化と日本会社、日本の将来と話す。レジュメは配ってあるが、板書を併用。通訳無しだが、反応からすると理解度は高い。全学年だが、2年生・3年生が主力のようだった。

質問は、「和」の精神とはなにか？日本企業は、中国でも日本的経営、終身雇用などを適用するか？男女差別はあるのか？小説は経済と関係するのか？など、上手な日本語。元も、知見を披露。日本文化と中国文化の差異など補足して講演は終了。さすが、南開大学の学生の日本語能力は高い。信州から外国専門家として来ておられる片町先生も聴いてくださり恐縮。日本語科の先生も数人来ておられた。王学院長に挨拶して帰る。

日本研究院に寄って、来週のセミナーのレジュメと図表を周さんに渡し、宋先生と立ち話。上海は寒いからお大事にと別れる。

浜海学院講義のレジュメを作る。元が留守中の2回分、独占禁止と労働関係法がテーマ。

夜は、南開大学と浜海学院の若手の皆さんと会食。周さんの可愛い奥さんも一緒。中学からの同級生で中学校の歴史の先生をしている。富山さんは「筒井筒」という日本語を紹介。許さんは、ヘアスタイルを変えてあか抜けてきた。天津師範大での待遇は、博士になっても変わらないとのこと。博士論文は出版準備中。喬さん、張さん、それに、昨年9月赴任の王玲さん、それぞれの博士論文も、出版助成金を申請して刊行予定。王さんは、北京大学博士で、お茶の水大で小風さんの指導を受けた女性。サンフランシスコ講和がテーマ。浜海からはゴンさん。「龍」の下に「共」を付けた「龔」という珍しい名前。日本語読みはキョウさん。日本研究院修士を終わって、今年9月から専任になる女性。

マルクス主義研究所の拡大強化については、あまり期待していないようだ。大学でもマルクス主義は必修だが、内容が興味をそそるモノではないのだろう。マルクスの原典もあまり読まれていない。さすが王湧さんは、資本論を読んでいるが。キリスト教概論と同じように、必修となると、若者の姿勢は、形だけの勉強になる。毛沢東の原典も流行っていない。マルクス主義再考も、形だけにならないことを祈ろう。

2月25日（土）

朝5時、予約のハイヤーで元が北京空港に行くのを見送る。7時まで寝て、105号室から元の201号室へ引っ越し。

11時、閻さん来室、甘栗とサンザシ飴・ムカゴ飴をくださる。サンザシの間に餡を挟んで串に刺し、飴でくるんだ食べ物。良く見かけるが食べるのは初めて。ムカゴも茹でたのを串刺しして飴でくるんだもの。これは初めて見たが、案外美味しい。栗は品質にばらつきがある。北京の甘栗の方が良かったが、時期によるのかもしれない。いずれにしる、天

津甘栗とは称していない。

日本商務の原稿にルビを振る作業を見てもらって意見を聞くと、2年生向きでも少し細かすぎるようだ。未完成の分をメールで送って、ルビ振りを頼むことにした。

ノースウエスト 12 便が成田に無事到着したのをネットで確認してから、専家楼食堂で昼食。食堂のテレビでは、トリノの金メダル表彰式。男子エアリアルで優勝とはすごい。スポーツとしてのスキーが普及していない中国だが、なにしろ才能のある人物は、日本の 10 倍はいるはずだから、訓練の場さえあればすごい結果が出る。

2人は閻さんの案内で市内見物にでかける。元から、無事到着のメール。

4時半、散歩。東門から出て天津大の前を歩く。堀の水は氷結しているが、場所によっては波立っている。温水でも流れ込むのか。釣り人も数人居るが、釣れている様子はない。天津大の角を曲がる。大路の反対側にも学生寮があり歩道橋がかかっている。広大な敷地に博士寮を建築中だ。かつての総合商店ビルがガラスが割れたままに放置されている。隣接する小商店が集まった市場も閉鎖途上で古本屋、アクセサリー屋などがまばらに店を開いている。この一角は、いずれ再開されるのだろう。

古本屋を含めて本屋が多いのは大学前で当然だが、理容・美容室が目立つのは、現代中国の特徴だ。瘦身、減肥、美白の看板も多い。美しくなりたい願望は、基礎的な欲望のひとつだから、所得上昇とともに、この種の産業は拡大するだろう。今は防寒服だから街中で振り返りたくなるスタイル美人はいないが、日本人より足長体型の人種が、お洒落に熱中したら見応えがあることだろう。

天津大のキャンパスに沿って道を曲がる。古い住宅群がならぶ小区は、新しいマンション群とは対照的だ。鉄格子を付けて部屋に改造したベランダが並ぶ4、5階建てアパートは、かつてのモダン住宅だ。1階の住人は、庭側に進出して小店を開いている。服の修理屋、雑貨屋、食品店、食堂など雑多。日本でも住宅地内の戸建て小住宅の1階を飲み屋やコーヒー店に改装する家を見かけるのと同じような姿。小商いは、それなりに商売になるのだろう。

朝の散歩コースに出て、天津大構内から南開大構内へ戻り、帰室。市内観光の2人は帰ってきていて、古文化街の麻花屋で買ったという中国菓子でお茶。甘栗の一口羊羹、ゴマ餅など、結構美味しい。天津外語学院周辺の居留地洋館街から、古文化街へ回ったそうで、風の寒さには参ったようだ。

昼食の残りを持ち帰ったのをリメイクしたチャーハンと冷凍餃子の湯で夕食。中国茶道を習おうという話など。中国にはコウロギを入れて持ち歩く陶器壺があるそうで、似たものを道具屋が水差しに使うべく、さる大宗匠に箱書きまでさせた話は面白かった。丸い小球になっている中国茶の製法は、富山さんも知らない。研究を依頼した。茶の本場だから、富山さんの研究課題はたくさんありそうだ。

久しぶりにローヤルゼリーを飲んで早寝。

2月26日（日）

朝は西南村に買い出し、日曜の早朝なのに学生が入っていく建物が多い。勤勉な人種だ。市場には、肉挟み餅屋が店開きしている。前回なかったのはたまたまのことだったらしい。2個購入（@1.7元）。他の焼き餅も1個、豆乳0.6元分、梨・リンゴ各1個、殻付落花生1斤（4元）を仕入れる。アップルパイの美味しいパン屋があるとの話で数軒のぞいたが、それらしいものはなかった。

村内には房屋交易市場の立て看板がある。南開関係者の間ではアパート売買が自由だから大学村の中の不動産仲介業があるようだ。各所に〇〇会社の事務所もあり、学内企業を統括する株式会社もある。予算の半分は自己調達だから、大学も営利事業をやらざるをえない。特許を持っている自動販売機販売事業は、かなり儲かっているらしい。

帰宅して朝食。梨は外見は見事だが、中が痛んでいた。落花生は素煎りかと思ったら、塩煎りで、ニンニクの臭いもする。今朝の買い物は失敗。

恵子が風邪気味なので、喬さんに電話して午後の市中見物はキャンセルする。おばさん2人の案内よりも、冠華ちゃんと一緒に過ごした方が良さそう。

ルルを飲んで恵子は寝ているので、昼食は冷蔵庫のシチューとパンで済ます。もともと自活力は弱いし、元の食材ストックのあふれる台所では、何がなんだか判らない。

夕方、八里台市場に買いだし。幼稚園の裏、総合実験棟の前の庭園に古樹珍樹「龍爪棗」が2本あるのを発見した。雲竜柳のようにくねった枝のナツメで、高さは3m程度の風格のある古樹だ。低い柵で保護されている。どんなナツメが生るのだろう。

東門の交差点で青信号待ちをしていると、物乞いが来た。杖をついた老人で、私よりも若そうだが、1元を喜捨。戸籍地での公的扶助制度はあるが、無戸籍の都市貧民は、働けなければ乞食をするしかない。北京で多く見かけたが、天津では初めてだ。セーフティ・ネットがない格差社会は、どうなることか。

街中の求人広告では、写字職で1000字で3元、ホステスが身長170cm以上なら月収3000～5000元。外国人相手のバーが多いそうだから水商売は稼げるようだ。

市場は大のにぎわい。羊肉店では、薄切り肉をパピヨットのように巻いたものを売っている。しゃぶしゃぶ用だろう。ここには、しっぽのついたロバ肉や頭のついたイヌ肉は売っていない。狗肉料理店の看板は見ないが、驢肉料理の看板はある。あまり一般的な肉ではないようだ。魚屋では、上海蟹を売っていた。

南のはずれでは、シートの上に少しばかりの商品を並べる露天商が店開きしている。大工道具の中古品もある。カンナは引き削り型のような。竹製の靴べらを2元で買う。专家楼は、靴べらを備えていないので不便だった。

タマネギ、青首大根、椎茸、ピーナッツ、うどんなどを仕入れ、焼き鶏1羽を14.7元で買う。学内では、四角く薄型の背負い袋とプラスチックの道具箱を持った若者が、門に向かって歩く姿が目立つ。絵画教室でもあったのだろうか。

買い出し散歩は、お昼に富山さんからいただいた万歩計で2300歩。2km足らずという



ことか。ボタンを押すと **5.6g** の数値。脂肪燃焼値らしい。痩せるのも大変だ。

富山さんが用意してくださった鶏の水炊きで夕食。青首大根のオロシは、辛みもあって良い。ワインと思ったがストックがない。紹興酒は **1985** 年古酒で、飲んでしまうと元がガッカリするだろう。中国ブランディで我慢する。といってもワイン技術よりも蒸留技術が進んでいて、ブランディは価格が安い割には美味しい。よく寝たので恵子も回復して、ブランディも飲んだ。

2月27日（月）

西南村に買い出し。小麦粉に卵を入れた生地ニンジンやニラを混ぜて焼くチジミ風の餅を2種購入(@1元)。今流行っているのは、電気自転車だ。沈先生も乗っているが、充電式のモーター車で、日本のものとは違って、漕がなくても結構スピードがでる。日本ならバイク扱いになるような製品だ。**1500** 元くらいで買えるようで、專家楼の掃除のおばさんも乗ってくる。頑丈なチェーン鍵をかけたうえに、蓄電池を外して駐輪している。自転車盗難は日常茶飯事だから、沈先生のも、いつまで大丈夫なものか。

小型犬も流行。今朝は7匹と出会ったが、うち4匹は狆、ペキニーズだ。大小があり色も違っているが、顔立ちは一緒。国犬ということか。

北京のカクさんからのメールに返事したら、さっそく電話をくれた。就職活動で忙しい様子。北京での再会を約束。

10時から日本研究院セミナー第2回目。「敗戦から高度成長まで」を話す。4月から日本に留学する孫君が通訳してくれる。対日援助の役割についての質問に答える。喬さんが、中国の重化学工業化の前途を質問。**19** 世紀の重工業、**20** 世紀の重工業と変化し、**21** 世紀には、**IT** が基軸になるが、自動車も、エネルギー転換などで新しい姿となって重要な役割を果たす。しかし、外資依存の現状は、早急に改める必要があると答える。

日本研究院の門にあった大理石製の門標がなくなって、代わりに金属製のものになっている。なぜか劉先生に尋ねると、風水の見方で、良くないと言われたとのこと。范曹先生の揮毫だから、石の方が堂々として良かったと思うが。「気」を殺ぐというなら、周恩来像の前の **TEDA** ビルのほうが強烈だ。

うどんで昼食。昨夜の水炊きの残りを使おうとしたら、もう酸っぱくなっている。北京でも感じたが、中国は室温が高いせい、はたまた腐敗菌が強力なせい、食品の傷みが早い。卵うどんになる。

昼寝をしてから、西南村へ。昼の西南村市場は朝とは姿が変わる。焼き餅などの屋台の場所は、本、雑貨、服、靴などの店になっている。西南村門でタクシーを拾ってカルフル家楽福の白堤路店に行く。**9.5** 元。2階建てで、繁盛している。オーブントースターを探したが、大型しかないのであきらめる。ワイン8本と野菜・ミカン、リンゴ、洗剤、ピーナツバター、あんパン、菓子などを買って帰る。フランス独資の天津ワイナリー物赤、特売中で2本 **45.8** 元と3本 **71.6** 元、知らないブランドの白、**39.6** 元、**38.5** 元、長城白 **35**

元。恵子は、海光寺店の方が品揃えが多く、パンも焼き方が上手だという。リンゴも安い  
が、傷、打ち身も多く、日本では売り物にならないレベルだ。

部屋に、元の学生から電話。卒論指導をする8人の4年生のひとり。3/11に帰ってから  
指導することで王学院長と了解済みの由を伝える。先日の講演は聴き損なったようなので、  
日本研究院のセミナー聴講を勧めておいた。

昨日買った焼き鶏で夕食。3本組みの赤を飲んだが、ボディがしっかりしていて、なか  
なか結構。富山さんが、井伏鱒二の「さよならだけが人生さ」の原詩を忘れたというので、  
ネットで検索して発見。はやく、持参のパソコンをネットに繋ぐと良い。

すこし風邪気味なので早寝。

2月28日(火)

起きると外はうっすらと雪化粧。まだちらほら雪片が舞っている。このところ寒いわけ  
だ。オートミールで朝食。ニュースは、民主党のドジ振りを報道している。ダボハゼよろ  
しく何にでも食いつくあたり、野合野党の浅ましきだ。それにしても、幸運の女神はまだ  
小泉政権を見放してはいないらしい。

藤本隆宏らの『ビジネス・アーキテクチャ』を読む。面白い考え方ではあるが、アーキ  
テクチャ概念が、まだ明確に規定されておらず、曖昧なところが残る。部分と部分、部分  
と全体の関係を示す仮説だから、鍛え上げれば、社会科学の広い範囲でも活用できる可能  
性がある。システム論の新しいヴァージョンだ。

おじやの昼食を早めに食べて、昼過ぎ、迎えに来てくれた劉さんと西南村バス乗り場  
に向かう。また小雪が舞ってきて風が冷たい。12時半のバスが少し遅れて来た。ここから  
は、開発区にある南開大学の別キャンパス行きのバスも出る。1時間ほどで南開大学浜海  
学院に着く。

龔さんが迎えてくれて、外国語学院日語科の教員室に行く。4階だがもちろんエレベ  
ータはない。主任の藩先生にご挨拶。見事な日本語なので驚くと、15歳まで日本で育たれ  
たとのこと。南開大学外国語学院教授を退任後、浜海学院の日語科立ち上げ役になられた。  
言語、文化、文学系は南開大学にまかせて、浜海学院ではビジネス日本語系を特色とする  
方針。2004年に現2年生70数名が入学、去年は人気が高く定員の倍近い130数名を受け  
入れた。

藩先生、独自の教育方針を持っておられ、学期毎に成績順にクラス分けをする。英語科  
ではしていない方式とのこと。新大学では、初期卒業生の能力は社会的評価に係わるから、  
これもひとつの方法だ。こぢんまりしているから学生の顔は全員覚えて、気軽に声を掛け  
て忠告したり励ますことができる。手作りの教育に近いから、成績別クラスも、ただ差別  
化と競争を意図したものにはならない。

別棟の教室で、2年生全員を対象に授業。元のスケジュールに乗って、独占禁止法と知  
財法を話す。日本の法学部でも3年生くらいで取る講義科目だから、もちろん、大筋だけ

を分かり易く話す。龔さんが通訳してくれるが、**25～30%**くらいの学生は通訳なしでも聞き取っている反応だ。話への集中力は高い。初年度学生で、大学入試の共通試験でトップクラスの学生も入学しているとのことだが、たしかに、しまりのあるクラスになっている。

**100**分ほどで終わり、質疑に移るが、みなもじもじしている。藩先生が質問の手本を示して、あとに1人が綺麗な日本語で質問。不当な取引制限と不公正な取引方法の違いという、高級な質問だ。とりあえず、複数企業による共謀行為と単独企業による規制行為のちがいで説明。法文的にも判りにくいところだから、質問者の理解度はかなり高いことが判る。浜海学院の学生に対する元の評価が高いのもうなずける。

藩先生の部屋で帰りのバスを待つ。去年訪問したときからみると、実験棟や学生活動館の建設などが進められている。**2010**年に、キャンパス・プランを完成させ、**29**学部**8000**余人収容の大学になる。国庫補助なしの独立採算制で独立大学とよばれるもので、すでに全国に**200**校以上が開学している。進学率上昇の受け皿だが、授業料負担は重いから、独立大学間競争で上位校にならないと良い学生は来ない。

バスでは、藩先生と並んでいろいろお話。3歳年下の方だから共通の話題は多い。中国現代史について、忌憚のない話をうかがえた。正門で下車、日本研究院に自転車を置いている劉さんと別れて帰室。

富山さん手作りのちらし寿司で夕食。和食のおいしさを味わう。留守中、片町先生に甘酒をご馳走になった由。まだ風邪気味なので早寝。

3月1日（水）

陽射しが暖かい日だが、風邪気味で散歩は取りやめ。

10時にカルフル海光寺店に買い出し。車が渋滞して**14**元かかってしまった。ここの店のほうが広い。薬局がないので、一端外に出て探すが見あたらない。また戻って、3階の電気製品売場でトースターを買う。小さいのが**99**元と割高だ。あまりパンを焼く習慣がない国だから、高いのだろう。

食品階でいろいろ買い物。茶売場で、薬屋で買おうとしていた胖大海を発見して購入。田付さんが喉の薬と教えてくださったもの。八宝茶の素材として売っていた。**50g**5元だ。たしかにここの店の方が品数が多い。ただ、商品管理はずさんで、方々に、商品が台から落ちている。エンジンは買う気がしないほど品が悪い。高いが「無公害」表示のものを買う。輸入品は高いのは当然だが、日本なら**300**円くらいのデンマークビスケットが**40**円で売っている。

昼過ぎになって道が空き、帰路は8円で済んだ。購入した小籠包と包子で昼食。近くに小籠包を売っている店がないのが不便だ。狗不理が独占権を持っているわけでもあるまいに。

胖大海3粒に熱湯を注いで待つと、雲君からもらったものより大きく膨らんだ。質が違うのか？すこし渋みがある。とにかく飲んで昼寝。

閻さんから電話で、日本商務のテキストへのルビ振りをやっているが、学生に読ませると案外読めないから、先日の分もやり直してくれるとのこと。メールで1章分送る。2年生基準でルビを振る予定だが、かなり煩雑になるかもしれない。内容的にも対象は3年生以上ではある。

また、胖大海を2粒、薬湯にして飲む。身体が暖くなる感じがする。日本商務の整理作業をする。

夜は、煮豚、蟹内子と豆腐炒め、オカラ、湯葉とキュウリのサラダで夕食。中国で中華料理をつくることに、恵子はすこし違和感を感じているが、美味しいものは美味しい。

食後は、セミナー最終回のレジュメをつくる。2002年から2005年にかけてのGDEの項目別変化率を計算したが、輸出と民間設備投資が主導する景気回復であることが一目瞭然になった。ネットからデータをダウンロードできるから、便利な時代になったものだ。

寝しなにまた胖大海を2粒飲む。喉の具合は確かに良くなってきた。

3月2日(木)

散歩はサボり。バックで朝食。カルフルのフランスパンは食べられる。

日本研究院に富山さんと出かけ、陳先生に紹介。10時、3回目のセミナー。安定成長からバブルまでを話す。経済系1年生のRさんが通訳。時々、張さんが助け船。こっちも、トヨタ方式などは、あとで張先生に聞いてくださいと振って時間を節約。歴史系と政治系の院生が多いから、金ドル本位制とか先物取引など、解説が必要な部分があって時間がかかる。

質問は、今の中国経済はバブルかどうか。住宅価格高騰は、一部にバブル要素はあるが、都市化に伴う実需も強いから、日本のような崩壊現象は、少なくとも、2008年北京オリンピックか2010年上海万博までは起こらないだろうと答える。

中国ヌードル、たぶん太めのハルサメで昼食。帰室が遅かった分、歯ごたえが無くなったが、美味しい。粉食文化は、いろいろな種類の麺を生み出している。富山さんがもらった梨を食べたが、甘くない。最初は酸っぱく感じたのは、その前に口にした羅漢果水のせい。富山さんが煮出したノンカロリー甘味料だが、変に甘さが口に残る。ステビアなど、糖でない甘味成分は、昔のサッカリン、ズルチンもそうだが、やはり違和感がある。パルスweetにしてもだ。

6時過ぎ、宋先生が迎えに来てくださって、トウ先生の招宴へ。タクシーへトウ先生から電話で、会議で少し遅れるとのこと。河西区の友誼海鮮飯店。かつては、高級幹部専用のホテル宴会場とかで、立派な建物だ。

やや遅れてご夫妻が到着。再会を喜び合って乾杯。中国の大学は、どこでも、採算目的で事業会社を持っているが、ほとんどがうまくいっていない。南開大学の株式会社もそうで、その立て直しに、経済専門のトウ先生に白羽の矢が立った。学問と実業は違うのにとトウ先生は苦笑しているが、実際には、かなり精力的に取り組んでおられる。はやく、

学問に戻るのが目標といわれるが、なかなか簡単ではないだろう。

食事中の電話で、トウ先生は中座。やはり忙しい。奥様とおしゃべり。胖大海の効能、何回服用しても良いこと、生の果実は見たことがないことなど。忙しいご主人の健康管理の重要性を申し上げる。運動する時間は取れないとのこと、お若いとはいえ、3役をこなすにはケアが必要だ。

トウ先生は、大学院事務を手伝う劉さんを連れて戻ってこられ、すこし歓談してから、再会を約してお別れ。宋先生が專家楼まで送ってくださり、劉先生の自家用車でお帰り。日本研究院も、いよいよモータリゼーションだ。

元にメール。湯気出し器が壊れたので、備品なら交換してもらおうと思ったが、**200**元だして買ったものだそうだ。ちょっと変に扱ったので壊れたのか、明日、分解してみよう。

3月3日（金）

晴天、暖かくなった。また、散歩をサボって、のんびり朝食。これでは、肥る一方だ。壊れた湯気出し器を解体しようとしたら、特殊なネジ止めなのであきらめる。日本では見たことがないネジで、人の字のように3筋を刻んである。+や-のドライバーでは開けられない。

昼前に、恵子と八里台市場に買い物に行く。閻さんの誕生日祝いのケーキを注文して、6時頃取りに来ることにする。市場は、ちょうど、昼食の時間で大繁盛。この前に買った竹の靴べらを、もうひとつ、富山さん用に購入。卵、野菜を仕入れてから、小籠包と焼売を買う。さらに、陳老頭臭豆腐を買う。臭豆腐を油で揚げて、いろいろな醬をかけた食品。言うならば、厚揚の薄いのに味を付けたもの。

買ったもので昼食。陳老頭臭豆腐は、それほど臭みはなく、まあまあの味。紹興の臭豆腐とは違う。陳老頭臭豆腐と印刷したきれいな皿に入れてくれたから、チェーン店かもしれない。中国の食は、やはり奥が深い。

昼寝をして、王さんの迎えで天津財経大に向かう。ルーツは、南開大学の貿易系学院にあるようで、貿易・経営に特色を持つ。学院長室で休憩してから、会議室で講演。日本語系の学生と、貿易系院生が聴衆で約**40**名、王さんの通訳で熱心に聴いてくれた。

戦後日本経済から、現代まで駆け足で話す。質問は、今の中国はバブルか？日本経済の成長と輸出の関係は？中国人民元は、どのくらいまで高くなればいいのか？など、なかなか、面白い内容。一部はバブルだが、**2010**年くらいまでは、持つだろう。今、お金があれば、私も、天津でマンションを買うが、**2010**年前に売ってしまうだろう。中国の輸出は、今は日本の戦前と同じように低賃金を武器にしているが、これは長くは続かない。中国の独自の技術を開発して、国際競争力を維持しなければならない。元は安すぎるが、急に高くすると日本のドルショックやプラザ合意のような影響を受けるから、徐々に高める方が良い。どこまで高めれば適当かは判断できないが、ゆっくり上げて、少なくとも、2倍くらいにはしなければならぬだろう。など答える。

話の最後は、中国の若者はいま目が輝いている。これは、日本の高度成長期と同じだが、その後の日本は、若者に夢を与えられない国になった。中国が、いつまでも、若者に夢を与え続けられる国になって欲しい。日本が夢を失ったのは、お金がすべてという風潮に流されたためだ。同じような道を、中国が歩まないよう、皆さん、頑張ってください。

まあ、無理な注文だとは思いつつ、やはり、言っておきたかったことだ。すこしは、判ってもらえたかな？

帰る時に、宋先生からの電話で、**Pang** 副学長が招待してくださるとのこと。恵子に電話して、閻さんの祝宴は、3人でやってもらうことにする。

久しぶりにお会いした **Pang** 先生は、すこし痩せておられる。お忙しすぎるのだと思ったら、やはり、体調を崩しておられたとのこと。マルクス主義経済学のまとめ役だから、過労気味になる。先生自身が、過労死するかと思ったと冗談。マルクス主義のために身を捧げるのも結構だが、くれぐれご自愛くださいと申し上げる。

**Pang** 先生の仕事は、マルクス主義全般にわたる標準教科書の編纂。百家放声のなかで、極めて気骨の折れる仕事だ。ストレスの塊のような仕事。これは、興味しんしんだ。今、大まじめにマルクス主義に取り組むのは、中国くらいだから、その公式見解が公刊されることの意味は大きい。

大いに期待するわけではないが、生きたマルクス主義のいまの姿には、興味がある。刊本を日本語訳することをお勧めすると、日本には興味を持つ人が少ないのではと仰る。翻訳権をいただければ、一財産作れる程度には需要はあるというので笑っておられた。

経済成長万能の現代資本主義は、やがて破局を迎えるから、それとは異なる道を中国が進むことを期待する旨申し上げる。うなずいておられた。

仕事が終わったら、日本で温泉に浸かってゆっくりしてくださいと、日本での再会を約してお別れ。明日はまた、北京で面倒な会議とのこと。忙しい合間に、ありがたい。お礼を言うと、古い友人には当然の応対と言ってくださった。感謝。

部屋にもどるが、恵子はまだ帰っていない。元からのメールに答えがてら、今日のことを知らせる。ほどなく、3人の女性が帰室。水上公園の近くの杭洲料理を楽しんだ由。閻さんに誕生日ケーキを贈ってお別れ。自転車で帰るのは心配だが、天津の治安は良いと、閻さんは平気。それなら良いが。

3月4日（土）

朝は、西南村に散歩。美人が黒のコッカースパニエルを連れていた。ここでは、ペキニーゼよりステイタスが高いのではないか。そろそろ犬も記号論的消費対象になったか。

天ぷら挟み餅（2元）、油餅挟み餅（1.5元）、豆乳（0.5元）を購入。蓮の天ぷら3つ、茄子の天ぷら2つ、薄い豚カツ1枚、目玉焼き1つ、酢漬けもやし、酢漬け大根を、3角に切った焼き餅に挟んであるのが天ぷら挟み餅、薄いクレープに生卵を落として潰しながら焼き付け、醬2種、刻みネギで味付けて、4角の油餅を包み込んだのが油餅挟み餅。と

もにヴォリューム満点のしろもの。味は、天ぷら挟み餅がはるかに上。コスト的にも割安感がある。

昨日、王さんに聴いたことを2人に話す。ここの結婚披露宴は、招かれると**200**元程度の現金を包む。**10**人1卓で**800**元くらいだから、実質**100**元程度が祝い金になる。最近、派手な婚礼が多くなっていて、日本のプロデュース企業も進出した。結構、祝い金が手元に残るから、実質的なお祝いになるわけだ。日本では、宴会場に儲けられすぎている。

昼食は、モリうどんと、富山さんの里芋煮付け。中国の乾麺で、まあまあ食べられる。フルーツのヨーグルト和えのデザート。甘くない梨もチンすると美味しい。

昼寝。電話で、海浜学院の2年生が、火曜日の講義のあと、日本経済の特別授業をして欲しいと言う。先生の授業が好きだからといわれては、断るわけにはいかない。喜んで引き受けると伝えると、歓声をあげている。可愛い学生たちだ。

夕方、八里台市場に。青梗菜の小型を1把(1元)、クワイのような芋を1斤(1.5元)買う。相変わらずの賑わいだ。ケーキ屋でチョコレートケーキとチーズケーキを買う。2つで**25**元という高さだ。閻さんにあげたケーキ屋で、天津で一番と評判の店だそう。腕前はどうか。高いのに、若いカップルが楽しそうに買っていく。長中期を考えなければ、現代中国の経済成長は、幸せな風景ではある。

夕食は、椎茸の挽肉詰め、焼き茄子、大根の酢の物、澄まし汁。ここの椎茸は、日本で売っている中国産椎茸より、肉厚でしっかりしていると恵子は言う。輸送への適性の問題か？茄子もアクがなくて良い。野菜は、品数も豊富だ。

3月5日(日)

朝は、西南村へ。周恩来像の後ろにある主楼には、高校生たちが集まってくる。統一試験も近いから、模擬試験でもあるような雰囲気だ。この国の受験戦争は、急速に日本にキャッチアップして、もはや追い抜く勢いで激化の一途を辿っている。小皇帝たちの競争は、確実に、人格形成に歪みをもたらす。この歪み、経済成長には短期的にはプラス要因となるあたりが怖い。他者の痛みを感じる能力を失った主体が、欲望を全開にしてマモン神の信者になれば、資本主義社会では、怖いものなしだ。

生物科学院新屋の建築現場には、新しい民工が到着したところだ。大きなビニール袋やバッグ、くるくる巻きにした布団などを手にした一団が、手配師？らしき人物に引率されて現場に集合、先輩民工に案内されて宿舎に向かった。基礎から1階骨格あたりができた段階だから、作業員を増強して得意の人海作戦を進めるのだろう。足場には、鉄パイプのほかに竹も使っている。クレーンは、横のアームが長いヨーロッパタイプ。低層ビル建設では、町中でもこれが多い。

パン屋2軒で菓子パンと食パン、豆乳を買う。ドイツパンのようなサンプルが飾ってあるが、これあるかと訊くと「没有」。パン屋のカンバンなのだろう。

帰路、ごみ収集車を見た。住居地区の道路右側には鉄製円筒型のゴミ箱が適当に配置さ

れている。収集車は、脇腹の小型リフトのアームをゴミ箱の鉄の取っ手に引っかけて持ち上げ、前方上部の投入口でゴミ箱をひっくりがえして収集する。収集タンクを斜めに持ち上げると中味が後方出口側に動いてスキマができる仕組みだ。南開大学の清掃部が作業を担当している。収集車が来る前に、再生可能な、つまり売れそうなゴミは、だれかが回収するから、ゴミ箱の中身はおおむね焼却ゴミだ。収集車の行方はわからない。

菓子パンは、大きいのが、アンコは少ない。小豆餡はリング状に断続的に入っている。肉デンプを醬にまぶした餡は、輪切り面に微量が塗布されている。クリームパンは、外側にクリーム層を含む生地が付着している。手間のかかる製法だが、味は問題にならない。3個で**3.6**元と高いから、主食には向かない。食パンは、甘すぎる。パンのレベルは低い。

**10**時、山城さんが迎えに来てくれて、まず、洋服屋に行く。紅橋区の繁華街にある服飾ビル。衣料関係の小店が並んでいる。背の高い女性経営者の仕立屋は、日本人顧客が多い店。向かいの生地屋で、替え上着2着、ズボン2着の生地を見立てる。結果としては、みんな日本製だった。値段は、生地代**610**元、仕立て代**860**元の合計**1470**元。極めて安い。日本の毛織物業が、中国で市場を持つとは驚きだ。上級品特化で、したたかに生き残っているのか。

ネーム入れを頼むと、本格刺繍だと型から新製して**180**元という。手刺繍なら2着で**100**元。ここでは、背広にネームを入れる慣習はないという。日本ならサービスの内だが、ここでは高くつく。手刺繍を頼む。

**11**時過ぎに、郭先生のお宅に伺う。テレビ塔近くの古い住居地区。建物は古いが、1階のご自宅は、内装も新しくきれいだ。書斎には、日本の新刊書が山積み。

富山さんとは、学習院・小学館関係者で、共通の話題が弾む。辻氏も知っておられ、担担麺の話をするの大笑い。人脈の広い方だ。**Pang**先生たちのマルクス主義教程刊行のことはご存じ無かったが、今までに無かった企画だから、読むのが楽しみだと言われる。混乱が続いた歴史を過ぎて、正統の思想がどのようなかたちに表現されるのか、裏の裏までご存じの先生には、特に興味深いのだろう。

ホームキーパーのオンさんと彼女の娘さんがつくる餃子は絶品。アンは、肉とセロリ、肉と酸白菜の2種。皮は自家製でないが、実に美味しい。黒竜江省出身で、本格的な腕前だ。酸白菜は、以前、楊先生が手製をご馳走してくださったときに、日本では手に入らないので、いまひとつ味が出ないと言っておられた素材だ。保存食で各種料理の素材となる酸白菜入りの餃子は、はじめて食べたが、味が深い。

帰りは、オンさんの娘さんが、会社から貸与されているジェットタで送ってくれた。上手な運転だ。現代中国娘の代表か。

昼寝をしてから、昨日買ったケーキでおやつ。チョコレートケーキは、スポンジが少し固いが、クリーム、チョコレートともに本物。焼きチーズケーキも、レモンピールの効かしが良く美味しい。いままで中国で食べた中では最高だ。賓果士 **Bengons** というケーキ屋。このレベルなら、日本でも、評判にはならないが、商売にはなるだろう。それにしても、



2つ 25 元は、いい値段だ。

そうめん夕食。中国産だが、まあいただける。おかずは、煮豚の残り。支度途中でブレイカーが落ちた。電気調理器のひとつが故障して過電流が流れたらしい。元にメールで問い合わせると、ここの調度備品らしいので、交換してもらおう。

3月6日（月）

朝散歩はさぼり。甘い食パンで朝食。

10時前、日本研究院へ。

最終回のセミナー。バブル崩壊、平成不況とそこからの脱出、小泉政権の功罪を語る。通訳は、博士課程の呉さん。途中で、劉先生が来て、李維安先生からの昼食のお誘いを伝えてくださる。12時半前に締めくくって、質疑は、夜の会食の時にと話す。

商学院の車で、專家楼に戻る。食堂で待っていてくださった李先生と、再会の握手。一橋博士の楊先生、研究院の劉先生も一緒に昼食。李先生の学院は、白堤路に面した敷地に大きなビルを新築した。地下駐車場を備えて、そこからエレベータで研究個室階へ上がれる最新式の研究教育棟が完成した。教職員百数十名の大きな学院だ。商学院から出発して、国際商学院となり、また、商学院に名称を変更した。

ここ2週間はヨーロッパ旅行で、暖かいマドリッドから雪のベルリンへと歩いて、帰国されたばかり。コーポレート・ガバナンスの第一人者は忙しい。

日本商務の監修をよろしくとお願いする。経営学専門の楊先生も、目を通してくださりそうだ。李先生の新編著『公司治理学』をいただいた。全国大学向けのガバナンス基本教科書で、目次を見ると、原理から各論、そしてケーススタディまでバランス良く書かれている。同文の民、どうにか読める。

ご多忙の中のお招きに感謝して、お別れ。劉先生にお願いして、電気コンロの修理を頼んでいただいた。

昼寝をしてから、家世界に買い出し。テレビ塔近くの民族資本のスーパーで、1階は名品街、2階が食品、3階が電器家庭用品。売り場面積はかなり広く、通路も幅広にとってゆったりした感じ。夜用のワイン、8本を仕入れる。プチ・パン、マンゴー、パイナップル、オレンジに気になっていた人参果などフルーツを買い、さらにオートミールと挽肉。この国のスーパーは、レジ係りが商品を袋に入れながら打ち込んでいく方式なので、時間がかかる。2人で分業するか、日本のように客に商品と袋を渡す方式にすれば、列は短くなる。並んで待つのが平気な国民だからこれでいいが、日本ならすぐ客離れた。

帰って、さっそく人参果を試す。西遊記には、赤ん坊が木に成っているのが人参果とあったが、これは細長型薄緑色で **4.5cm** くらいのつるつるした実だ。果肉は白で中空に蕊か未熟種子がある。ウリの仲間らしい。固くて、酸味があり、美味しいものではない。生食用ではないのかもしれない。昨日、恵子を買ってきたクッキーで口直し。八里台市場に行く途中の菓子屋で、元の推薦する店だけあって、けっこういただける。

6時から、専家楼食堂で、院生と会食。2年生は修士論文や就職活動に忙しいので、1年生9人と博士課程の呉さん、外国語学院の博士課程の周さん、それに喬さん。天津外語出身の眼の美しいCさんがメニューを選んでくれて歓談。前年度から修士課程は3年から2年になったというのに、まだ、論文テーマを決めていない1年生が多い。輪郭としては、新自由主義、第2次大戦期の日系アメリカ人、戦後日本経済、戦後日中外交、国際関係論など多彩だ。

日中国交回復の時に、周恩来首相が国民党政権の対日賠償放棄路線を継承することに決断した経緯など、興味深い問題があることを指摘。新自由主義のイデオロギー性、日系アメリカ人の日本占領政策準備過程での役割などを話す。呉さんの通訳を介しての話で、手間がかかる。やはり、中国語を学んだ方がよさそうだ。

呉さんは、日本の終身雇用制で博論準備中。周さんは、日系婦人のアメリカ家庭における生活を小説から見るというテーマで、すでに英文の博論を完成。見せてもらったが、きれいな文章だ。

帰宅して、EMSで送られてきた兄貴の講演原稿を読む。なかなか難解だ。はやめに通訳の先生に渡しておこう。

3月7日（火）

また散歩をサボる。家世界のプチパンで朝食。まあまあだ。

兄貴のレジユメを整理して、略歴をつけた1枚物のレジユメをつくり、日本研究院に持っていく。すっかり春めいて、暖かい。ダウンジャケットはやめて、軽いコートにする。日本研究院の庭園池にも水が入り、まさに水温むだ。

門前で趙先生に会い、兄貴の原稿を見せてよろしく願う。周さんにプリントアウトしてもらい、原稿もコピーして、通訳の先生たちに渡してくれるよう頼む。

小籠包で早めに昼食をとって、12時半のバスを西南門で待つ。沈先生が現れて、これから、TEDAの経済学院で授業とのこと。土曜日の会食にお誘いする。経済学院行きのバスが早く来てお別れ。7分遅れでバスに乗る。

うとうとしているうちに海浜学院に到着、龔さんが出迎えてくれる。藩先生は会議で不在。菊茶で一服。龔さんが、急須をプレゼントしてくれた。可愛い手紙付。この前の会食時に、干支の話で、日本ではイノシシ年生まれだが、ここではブタ年になってなんだかガッカリだとしゃべった。それで、注ぎ口と蓋の取っ手が愛嬌のあるブタのデザインの急須だ。紫泥茶壺は、匂いを吸収するので、茶種ごとに使い分けるといふ。釉薬の薄い出来だからだろう。万古焼きでも、使い込むと色が出るといわれるから、もつともだ。特に、中国の茶は、ウーロン、ジャスミンなど香りが強く、緑茶とは異質なものがあるから、使い分けは合理的だ。

2時から授業。労働法と社会保障の話をする。労働3権の成立史から労働組合法を、工場法から労働基準法を説明。一歩進めれば、経営参加権になるが、日本はドイツと違うこ

とも。セーフティネットの略説。中国の場合は、これから歴史を逆に進むように、労使関係の再編成が課題になることを指摘。質問が来ないので、難しかったかときくと、一斉に「良く分かりました」の返事。疑問の余地のない明快な講義だったのか？

一休みして、雑談。人参果や南芥の食べ方をたずねると、あまりよく知らないらしい。

1年生も参加するというので、**3時40分**頃まで待って講演開始。「日本経済の現況」をテーマに、戦後経済史の大筋を話す。時間の関係で、最後のところは端折って終わる。日本の経済成長のプラスとマイナスはとの質問。モノの豊かさは得られたが、ココロの豊かさを失ったと答えて、これからの中国では、日本の轍を踏まないことを期待すると言っていた。**4時50分**のバスなので、これでお別れ。レジュメにサインを求めのお嬢さんたちには喜んでサービス。

本館前を出発したバスを途中で止めて乗車。学院の回りは、天津検察官学院など、教育関係施設が多いが、まだ、畑地だ。すこし走ると、開発区の電子工業地域となり、広大な敷地に現代電子など合弁企業がならぶ。公園のような工場レイアウト。市内に近づくと、中高層住宅団地。「世界基準」とか「高級」などの看板も目立つ。建設中のビルが無数にある。これでも住宅価格は上昇を続けているのかと、驚くばかりの光景だ。市中に入ると道は渋滞。のろのろ運転で、**5時45分**頃正門到着。

ネットのニュースで、清水礼子さんの訃報を知る。大学院時代からの長い知り合いだが、学部長のときに、後任の哲学人事を頼まれて実現できなかったことが悔やまれる。哲学者冬の時代は、まだ続くことだろう。それにしても、**70歳**は、早すぎだ。富山さんから、清水幾太郎氏の話聞く。褒貶の幅が大きい人だったようだ。

ハンバーグステーキの夕食。豚肉の味に変わりはない。富山さんが持ってきた簡易浄水器をシャワーの管につけて湯を入れると、水の黄ばんだ感じがなくなる。磁力で、鉄分が凝縮するのか、ちょっと不思議だ。入り心地は、代わり映えするわけではない。

浜海学院の2年生から電話で、講義への感謝とまた話が聞きたい旨の申し入れ。今週で帰ることを告げると、また来年来てくださいと可愛い依頼。約束する。

早寝。

3月8日（水）

散歩は省略。オートミールで朝食。

恵子が、風呂の異変を発見。湿度維持のため終わり湯は流さないでおくが、浴槽の水位面に黒っぽい汚れが着いている。浄水器のせい？水分子を細かくする効果があるはずだから、垢を溶かす力が強くなったのかもしれない。人垢にしては色が黒いのは、鉄の分子を凝固させたためか。いずれにしても、なにかの変化をもたらすモノではあるようだ。

昼食は、恵子が買い出しに行ったキノコのペンネ。午後、富山さんが郵便の荷物を取りに郵便局に出かけた。帰りが遅いので、恵子が探しに出かけたが、見あたらない。事故かと心配して受付のお嬢さんにきくと、荷物は2つ、彼女たちが手伝って運び込んだとのこ

と。どこへ出かけたかと待つと、帰ってきて、荷物はタクシーで運んだので、乗っていった自転車を取りに行っていたとのこと。やれやれ。

日本研究院の招宴へ。大きな海鮮料理店で、皆さんと会食。王振鎖先生もお元気に参加。帰国早々の臧さんも。莽先生には**2003**年の瀋陽大学国際シンポジウムのお礼を申し上げる。女性先生が急に増えて、李卓先生も**20**年近くの女性1人状態から脱却された。

宋先生が、今日は、国際婦人の日なのでと、まずは、女性に乾杯。談論風発、趙先生と富山さんは、中国における国学（日本の）研究会の結成で同意。温先生は、地租改正から、日本農業問題にテーマを拓げられた由。ヘアダイが、お似合いだ。鄭先生には、閻さんのご指導に感謝。

莽先生とは、9月の国際シンポでの再会をお約束。皆さんと再見。宋先生が專家楼まで送ってくださる。歩いて帰られた。

皆さん仲が良くて、気持ちのいいファカルティ・メンバーだ。全員で、**20**名ほどだから、ちょうど、まとまりの良い規模かもしれない。経済系は莽先生、歴史系は李先生、政治系は宋先生がまとめ役。初めて訪れたときから見ると、人材が増えた。やがては、学部生を受け入れる段階になるのかもしれない。

3月9日（木）

南西市場に豆乳の買だし。住宅の前に、花籠が**10**ほど並び、馬と駕籠の張りぼてが置いてある。黒白のリボンに、名前と贈り主が書いてあるから、お葬式なのだろう。都市部では火葬、田舎では土葬の例が残るようだ。

同じ住宅の掲示板には、「邪教排除」のスローガンが貼ってある。法輪功への警戒だ。

昨日富山さんが八里台市場で買った小籠包で朝食。

午前、仕事。財務省のサイトから資本輸出のデータをダウンロード。整理すると、**2004**年の日本の直接投資額では、中国向けが香港向けを加えるとアメリカ向けを抜いて第2位になっている。現地法人数では以前からそうだったが、ついに投資額でも抜いたわけだ。オランダ向けが第1位だが、これは金融保険が多いからで、製造業は、ますます中国傾斜が強くなっている。これだけ中国傾斜が強いのに、外務大臣が台湾を国家だなど発言するのだから、外交痴呆症は深まるばかり。政経分離とたかをくくっていると、いつかひどいことになりそうだ。

開催中の第**10**期全国人民代表大会第4回会議では、天津滨海新区が、環渤海湾経済圏の中心として、重点政策対象になったようだから、ますます日本企業は増えるだろう。第**11**次5カ年計画が始まる。都市と農村の格差対策が重視され、農業税の廃止、補助金増額、義務教育費無料化、農村医療振興などを実施して、「社会主義新農村」を建設するという。**3000**年の酷税から農民を解放するとは、いささか大袈裟だが、昨年だけで**8**万件を越える農民紛争が発生する現状では、なんとかしなければならぬところにきている。

昼食は、チャーハン。キノコと卵に、富山さんが買った肉と香菜炒めオカズを入れたの

で、現地風で再現不能な個性的味になった。

日銀金融政策決定会合で量的緩和政策の廃止を決めたら、株価は大反発した。**IT**時代に、株価変動のパターンは変わったようだ。情報に敏感になってまさにイン・タイムで変動する。変動のあるところにこそ投機の面白さがあるのだから、**IT**時代は、まことにマネーゲーム時代にふさわしい。モノ創りの面白さと、カネ作りの面白さと、どちらを選ぶ人間が多いかによって、国のありかたがちがってくる。上手下手もある。日本はモノ創り上手でカネ作り下手、アメリカはその逆。

**5**時、天津百餃園に行く。名物の蟹黄（蟹の内子餡）をはじめ**6**種と蝦のフリッター、ビール、八宝茶。メニューには**5**個〇元と書いてあるので、**5**個注文しようとしたが、注文は**10**個が最低単位。合計**60**個を頼むことになった。忘れていたが、ここの**1**個は中身が多かった。口の長い銅製の薬缶で八宝茶に湯を注いでくれる技をながめながら、味のバリエーションを楽しむ。日本にこの手の餃子屋があれば繁盛すると思うが無いのではなかろうか。ニンニク酢、ラー油、刻みニンニク**3**種の入った調味ケースがあるが、普通の黒酢で食べる。

大量の残りは打包。**7**時から富山さんの卒論指導学生が**2**人、アルバイト先から直行してくるので、彼女たち用を見込んで注文したのもでもある。富山さんにご馳走になった。

元がブックオフで買い集めた**100**円本のなかから、多少、役立つ本を読む。古書市場も変わったものだ。昔の**100**円棚ではあり得ない本が、ブックオフに並ぶ。新刊書でも、半額で出して、しばらく売れないと、**100**円棚に回ってくるとのことで、アットランダムな収書でも、ちょくちょく店を回れば、結構な蔵書ができる。ネット古本屋は必要な時に利用すればいい。アマゾンのユーズドブックも、かなり安い。昔よりも安上がりに勉強できる時代だが、学生諸君には、本を読むヒマがないようだ。インテレクチュアル・ディバイドは、所得格差同様、拡大の一途を辿っている。

3月10日（金）

また、西南市場に豆乳の買出し。豆乳屋のおばちゃんと馴染みになった。まだ試したことのない餅をひとつだけ購入。豚肉の超薄切りを串に刺して鉄板で焼き、目玉焼きといっしょに挟んだ餅で、**1**個**1.9**元と高めだ。

住宅兼用の店に指圧で痩せる新しい減肥看板が出た。**5**斤**100**元と書いてある。成功支払なら安いものだ。婦人専用でリバウンド無しともある。いかなる技か、ちょっと興味がある。なにしろ、この国で、**?kg**増えたことは事実だから。

牛乳がないので、オートミールを豆乳で食べたが、やや不調和だ。ロングライフ牛乳はどこでも買えるが、生鮮牛乳はカルフルか家世界まで行かないと買えない。新顔の挟み餅は、まあまあ味の。

午前中は、恵子がカルフルに牛乳などの買出し。留守番していると水の配達 came。チケットを買って置いて、受付に頼むと配達してくれる仕組みだ。水屋は、沢山で入りし

ているようだが、一番安のを買っているらしい。あまり美味しくないのは、安いせいかな？

行きは歩き、帰りはタクシーで、恵子無事帰室。カルフルの全粒粉バゲットで昼食。中に白い部分があるのは、前の白パン分が混ざったのか。日本では考えられない雑な作業だ。

午後、北村を散歩。露天に野菜、果物、自転車部品、焼き餅の店が数店店開き。本屋、美容院、雑貨屋はあるが、市場はない。東門前の八里台市場が近いからだろ。村外れには新聞掲示板があって、6種類くらいの新聞が貼ってある。老人たちが読んでいる。この村は、まだ歩いたことがなかったので、面白かった。

周恩来の「我是愛南開的」の記念碑公園では、膝に載せた愛人と抱き合う学生。周総理は、どのように感じていることだろう。ちなみに、この文字は、**1919**年日本留学中の中国宛手紙から採られたもの。

日本侵略記念の鐘を回って帰室。春の気温で、すこし汗ばんだ。日本商務の仕事を仕上げる。

6時、張さんたちが迎えに来てくれて、天津社会科学院日本研究所の呉さんとタクシーで旧イギリス租界の料理店へ。馬先生のことをきくと、定年で退職されたとのこと。女性は**55**歳、男性なら**60**歳が定年だとは、男女差別も甚だしい。国際婦人の日を祝う国にしては問題だ。

瀟洒な西洋館が並ぶ租界の一角、3階建て1軒の住宅が中国料理店になっている。3階まで上がると、屋根を支える傾斜した梁で天井が窓に向かって低くなる屋根裏部屋。なかなか面白い趣向だ。

許さんが待っていてくれた。自転車できた張、喬、吉林経済大の王さん、財経大の王さんも到着。日本研究院博士課程同期生で、**2003**年日本で会っている皆さんだ。再会を喜びながら乾杯。許さんが選んだ料理は、南方系とのことで、家常菜の皿が並ぶ。なかなか美味しい。

談論風発。中国第5世代のリーダーとして期待していることを告げる。皆が老境に到る頃の中国は、どのような姿なのか。

許さんに送ってもらって帰室。元からのメールは、明日は川越からの空港バスを使うとのこと。いよいよ、兄貴の初旅だ。

3月11日(土)

朝は天津大四季村に買い物。まだ、古い煉瓦住宅は取り壊し中、古着を拾う初老の男性がいる。池の畔は、風が強く、耳が痛くなった。面白くなくなった市場で、紅苔菜を見つけたので1把購入、2元。何も入っていない焼き餅2個(@**3.5**角)、豆乳5角。太極拳や気功をする老人たちが、そこかしこ。日本研究院裏の大体育館建設作業は、上部の飾りひさし作りにかかっている。頼りない鉄パイプの足場の上で、ひさし状にパイプを組み、その上に割り竹を編んでつくった薄い板を敷いていく。それを足場に、ひさしを作るらしい。

作業員は、制服などは着ていない。安全帽をかぶっているが、どうも危なっかしい。

朝食を取っていると、小雪が舞い始めた。やはり、今日は寒い。

ネットで成田無事出発を確認してから、家世界へ買い出し。今夜用のワインなどを仕入れる。スパゲッティを探すか、売場が見つからない。果物などを買って帰る。

白アサリのペンネで昼食。待つ内に、許さんが来てくれる。お土産をいただいた。気配りの優しい女性だ。そのうちに、電話ですぐ着くとのこと。ロビーで待つと、タクシーが着いて、兄貴が到着。

部屋で、ビールで乾杯。

6時半、宋先生が来てくださって、嘉園で祝宴。外国語学院の王院長、通訳をしてくださる劉雨珍先生も。日本研究院の皆さま。李先生、趙先生も、シンポジウム終了後、遅れて参加して下さる。津酒の乾杯、異国での日本語の対話。大いに兄貴も喜んでくれた。王振鎖先生が、「頤寿」の扁額を書いてきてくださった。素晴らしい能筆だ。

卵白をベースにした豆腐状の素材を蟹の内子で味付けた一品や、串に刺して空揚げした蝦を塩盛りの桶の中央に林立させて固形燃料で燃やしながらサービスする火焰山なる一品など、珍しい料理がでる。王健宜先生によれば、学内レストランは顧客層が固定しているので、時々新しい料理を出さないと飽きられてしまうから、コックまで入れ替えるとのこと。中国の大胆なスクラップ・アンド・ビルド政策は、レストラン・メニューにまで及んでいるとは驚きだ。

沈・石先生の愛娘、シーシーちゃんが残り勉強していたので部屋に来てもらう。すっかり成長して、英語も上手になった。大学受験勉強で忙しいようだ。

3月12日（日）

朝、天津大に向かうが、冷たい風が強く、あの池の端を想うと震え上がって八里台市場に行く先変更。豆乳と目玉焼き挟み餅(@2元)を購入。寒風のなか、豆乳の温かきで手と耳の冷たさをかばいながら帰室。やはり、ここは北国、まだ、三寒四温だ。

恵子が昨日買って置いた小籠包・焼売と挟み餅で朝食。

兄貴を学内に案内。まだ風が寒い中、主楼前の周恩来像から校鐘、日本研究院、防空壕、事務楼、周恩来レリーフ、龍爪棗と回って帰室。事務楼の前に、古代中国日時計の模型があり、「日新月异」「惜時如金」と書いてある。**Time is Money**とは、フランクリンの格言。資本主義のモットーを掲げるあたり、さすが市場経済化途上の国かと驚く。

山城さんが迎えに来てくれて、平壤館へ。郭先生が待っていてくださって、焼き肉で昼食。普通のビルの二階に北朝鮮国営レストランがある。オープンの卓が5席、個室が5室ほどで広くはない。美女軍団から選抜されたような美女が肉を焼いたり薬酒を注いだりと、こまやかにサービスしてくれる。大学を卒業してから中国に来て2年ほどという。中国語と日本語がある程度判る。天津はうるさくて空気が悪いので、はやく国に帰りたいと話す。帰国しても飢えるようなことのないエリートなのか、建前を述べただけなのか。一緒に写

真を撮ることは断られた。

郭先生と兄貴は、旧制高校仲間のように打ち解けて、哲学談義。郭先生が1歳年長で、話は合う。ハイデッガー問題、三木清の獄死、真下信一とマルクス主義等々、あいかわらず郭先生の蘊蓄は深い。

すこしだけ北朝鮮産の漬け物がでたが、あとは中国産の素材で焼き肉。海鮮鍋、冷麺と食べて満腹。酒類の持ち込みはお断りで、1人**80**元ほどの支払いはこことしてはかなり高めだ。元の買い整えて来た和書をお渡しして郭先生とお別れ。

專家楼に戻る。薬酒が効いたのか、美女が効いたのか、眠い。兄貴たちが八里台市場見物に行った間、昼寝。

6時から、周素華先生の招宴。楊先生からの電話の指示と、奥様は言われる。張さんと王さんが通訳をしてくれて歓談。名古屋に住まれた奥様、兄貴とも共通の話題がある。事務楼前の日時計の文字は、古い中国の格言とのこと。フランクリンかと思ったのは早とちりだった。金は、マネーではなくてゴールドの意味だ。それにしても、現代中国にはピッタリのところがある。竹林の賢人が出る幕ではない。

周先生に感謝してお別れ。あと**20**日と、楊先生の帰国を待たれる風情の奥様だ。

日本商務の打ち合わせをして早寝。

3月13日（月）

朝の散歩は省略。フランスパンで朝食。

古文化街へ出かける。数年前いらいだが、すっかり変わって、小綺麗なショッピング街になっている。昔のほうが風情があったが、いまの中国は、古いものはお好みでない。天后宮に入って、見物。大きな線香をあげて参詣の人も多い。年画の絵はがきを買ってから、南市食品街へ。お土産に麻花を仕入れて、狗不理の包子を買う。三鮮が**10**コで**20**元、豚肉が**15**元と、やや高めだ。

2時半、日本研究院に行って兄貴の講演の準備。3時講演開始。趙先生が開講の挨拶と講師紹介。劉雨珍先生の通訳。『「有」と「無」－東西文化の交流』のタイトルだから、かなり難しい内容の話だ。劉先生が、あらかじめ準備してきてくださったので、どうやら嘖み砕いて通訳をしてくれているらしい。2時間の講演を終わって、休憩後、質疑。趙先生は、キリスト教の神と中国の天帝の異同を質問。兄貴、やや困るが、「創造者」についての考えが異なる旨回答。臧さんは、東洋の「有る」についての質問。これも難問。「有」「没有」「無」の違いが今日のテーマだが、長年付き合っている私にも良く分からないとか、仲介者的発言をする。

6時半から、三六三杭州菜で招宴。宋先生はじめ、趙、劉、喬、張先生に王中田先生も参加、院生も1年生中心に8人。王先生は酒豪、乾杯を重ねる。兄貴も院生を桃花になぞらえて、歓談。講演の結び、「後世畏るべし」を楽しむ。

乾杯を重ねてお別れ。



3月14日（火）

朝、八里台市場に買い物。今日は暖かい。豆乳と小籠包を買う。

朝食後、王中田先生の案内で哲学院を訪問。各科ごとに研究室があるが、教授の個室はないようだ。教室棟が完成したので、各学院の教室は研究室に改装中で、工事現場のよう。

王先生と專家楼にもどる。10時、宋副院长、劉、喬、臧、張先生とわざわざ韓先生がお別れに来てくださる。韓先生は、楊柳青の年画オリジナルをくださる。魚龍変化という題で赤ん坊が龍の上に座っている図柄。鯉のぼり同様に、長じて龍になるようにとの願いが込められた絵とのこと。南開大学のビューックで北京に。

北京郊外の高層住宅をながめながら、市内に入る。車の混雑はひどくなっている感じだ。何より目立つのは、タクシーが新しいこと。シャリーに代わって、現代のソナタ、エラントラ、VWのパスアットが急増した印象がある。シャリーを来年から禁止するというから、その準備だ。日系車は影が薄くなる。やがて、懐かしい四通橋下を左折、友誼賓館に入る。敬賓楼に投宿。ちょっと位置が判らなくなったのは、郵便局がなくなり、テニスコートがなくなり、そこに新しいビルが2棟出来たためだ。スポーツセンターも面目一新。2年間の変化は、ホテルの中でも著しい。6階のツインの部屋2つに入る。

お腹が空いたので、半畝園に行く。チャジャ麺、ピータン豆腐とビールで昼食。地下鉄4号線の工事で、地区センターが3環と中関村路の角に出来ている。香港上海銀行の支店が开店祝宴の準備中。ビル一階の中国茶屋は元禄回転寿司になっている。結構、客が入っている。

タクシーで故宮へ。大鐘寺前の畑はそのまま、トラクターが耕している。実験農園にもなっているのか、ちょっと不思議だ。故宮の北門で下車。ひとり40元を払って入る。いつきても広い宮殿だ。博物館には入らずに、宮殿だけを歩く。各国の観光客で、言葉も多種多様だ。景山の建物は工事中で囲われているから景色は良くない。故宮のなかも修理工事中、最大の建物も鉄パイプのなか。中庭の石舗装も修理中。20cmくらいの深さまで長方形の石を埋めてあることが判った。補修用には特殊な軽量コンクリートブロックを使っているが、本物は石ブロックだ。

天安門と間違えて端門に上ってしまった。楼門の中はささやかな展示場で、四合院の模型、皇后の馬車、兵馬俑模型などが並んでいる。面白かったのは、革命前の中国の写真展示。阿片吸引者、紙屑拾い、しんこ細工人、飴細工人、街頭の食事風景など、貧しさが直感できる写真だ。単なる歴史写真の展示ではなく、現代との対比を意識化させる意図を感じる。お上りさんが多い場所だから、革命の成果を印象付ける効果は大きそうだ。白塔の遠景は良い。

天安門をくぐって広場の前に入る。大きな毛沢東肖像は昔のまま。党中央が降ろすか降ろさないか討議したといううわさ話があるということだが、代わりに掲げるべき肖像画も無いだろう。何もないと、統合のシンボル不在感が強くなる。当分、降ろすことは出来な

いだろう。

人民大会堂では、全人代が開かれている。人民広場の警備はいつもより厳しい。風揚げ風景もない。地下道のなかも物売りはいない。前門に出たが、バス発着所前に並んでいたあの安売りの店舗群は青い板で封鎖され、開いている店は僅か。閉店につき大安売りの看板。前門大通りの両側もシャッター通りになっている。裏通りには昔の猥雑さが残っているが、そこも閉店大売り出し。ここはどうなってしまうのだろう。景山・故宮・天安門・人民広場・毛沢東記念館・東陽門とならぶ中心線の南端に、あの猥雑さと活気があふれるチェンメンがあることの面白さは、オリンピック開催都市にはふさわしくないと判断されたに違いない。秋水市場はすでになく、中国の面白いところが、ひとつひとつ失われていく。お行儀の良い現代都市になって車が渋滞する北京には、なにがしかの魅力が残るのだろうか。

タクシーで双安商城の前に来て、九頭鷹酒店で夕食。久しぶりに自分で料理選び。餅米まぶし蒸し肉団子、竹筒入りスペアリブ蒸し、梅干菜バラ肉煮、栗と鶏の炒め、白菜とピータンのスープ、ビール。写真入りメニューだから注文は楽だ。栗と鶏の炒めは恵子の定番料理だが、なぜか本場では食べなかった一品。八角が効いていて、芽にんにくが入っているところが本場の味だが、どっちが美味しいかは問題がある。

可愛い娘がお給仕。田舎からきた純朴な感じで生き生きした振る舞いの美人。NHKの朝の連続ドラマの主人公にピッタリだろう。今度の旅で見かける中国女性については、やや肥り気味になった印象がある。だれかが、中国女性のスレンダーな体型について、単なる栄養不足と分析したそうだが、あるいはそうだったのか。ボディコンシャスなスラックス姿が増えたので、こっちが気にするようになっただけなのか。お給仕の娘は、昔の美形だ。

満月を楽しみながら歩いてホテルへ。ホテルの百貨店でビールを買って帰室。カクさんに電話で明日の夕食を約束。李平先生には人民大学の車をお願いする。

3月15日（水）

朝は、人民大学へ歩く。ホテルの前には机が並び弁護士たちが消費者問題の相談に乗っている。天気はいいがやや風は強いから、双方、大変ではある。

人民大学の正門から入って、奥に進む。孔子像は図書館前にある。位置が少し変わったような気がして、学生にきくが、英語が通じない。ともかく、兄貴は写真を撮る。

タクシーで鼓楼へ。少なくなったシャリーで、**1.2**元基準。新しいのは**1.6**元だから、これのほうが経済的。鼓楼の急階段は無理なので、周りを回る。兄貴が小用というので、公共厠へ案内する。ところが、改装前のもので、貴重な経験をさせてしまった。

胡同を歩いて前海へ。三輪車がしきりに誘うが、「不要」。まだシーズンでないので、閉めているバーが多いし、改造中の飲み屋も目立つ。岸辺の料理店で昼食。ビール中瓶1本**35**元はやたらに高い。この前来た時を思い出したが、後の祭り。餃子と焼き茄子とうどんを頼む。食事中に兄貴が孔乙己酒店の話を持ち出し、行ってみたいという。案内書は持つ

てこなかったので、字を書いてウエイトレスに聞くと、近くだとのこと。行くことにして店を出る。

前海と北海の間の道は、前に凧の材料を買った店がある。その前の甘栗屋が繁盛していたことを思い出して店に行く。ちょうど焼いているところだったので、5分ほど待って8袋購入 (@ 1斤 10元)。タクシーで孔乙己酒店へ。

后海のほとりに店があった。かなり広い敷地に、平屋の店が立っている。入ると魯迅の胸像。昼飯は済ませたので、紹興酒5年花彫を1斤と、揚げ臭豆腐、白切鶏を頼む。徳利に錫の薬缶から燗をした紹興酒を注ぎ、お湯の入った陶器に入れて、蓋の猪口で飲む。兄貴がすっかり気に入って、3点組の酒器を購入 (@15元)。この手の酒器は街で売っているが、孔乙己の名前が入っているのはここでしか買えないから、良いお土産だ。雰囲気はいいが、白切鶏は固くて良くない。

タクシーで琉璃廠へ。学校の終わる時間で、迎えの自家用車で大混雑。道幅が広がって、石造りの歩道橋は階段を残すだけだ。栄宝齋と中国書店に入る。齊白石の川蝦の図柄を刺繍した額が良かったが、買うのは見合わせ。文庫本のように綴じてある画集絵はがきを買う。8冊買ったから、余生で使うには十分な量だ。猫の絵手本を、姉上のお土産用に購入。

中国書店では、兄貴は哲学の書棚を見ていろいろ考え込む。経済の書棚は貧弱だ。歴史書は豊富。まあ、日本と同じだが、経済学の衰退は、意味が違いそうだ。マルクスへの関心の衰退と新古典派の衰退は及ぶ影響が異なる。マルクス衰退の方が深刻だから、中国共産党がてこ入れに力を入れるのは当然だ。ことは国家の根幹に係わる。

歩いて地下鉄の和平門駅へ。兄貴の希望での北京体験だ。若者が席を譲ってくれるあたりが、日本と違う。西直門駅で下車。タクシーで帰室。ホテル百貨店でビールを買ったが、栓抜きを持ってこなかったので、バッグの肩掛け金具でどうにか開栓。

6時にカクさんが迎えに来てくれて烤鴨店へ。周さん、張さんと再会、やや遅れて魏さんと林さん。他の皆さんはそれぞれに忙しいようだ。皆さん北京での仕事を希望して就職。地方大学なら修士でも教職に就けるが、やはり都会志向が強い。

兄貴は哲学を語り、みんなは珍しそうに傾聴。それぞれに貴重な交流経験だ。張さんに明日の案内を頼んでお別れ。

3月16日(木)

朝食を早めにとって、8時に正門へ。張さんが待っていて、人民大学の車を探す。ワーゲンのパサートの新車で運転手ははじめての宋さん。長城へ出発。加速の良い車で、乗り心地も良い。張さんは、今の若者で一番社会的に評価が高いのはバナナ族だという。欧米留学で語学と専門知識を身につけた中国人は、外側は黄色いが、中身は白いバナナというわけ。

高速道路は重量物輸送のトレーラーが北へ向かう。張家口など河北省への輸送ルートになっている。道は空いていて、9時過ぎにケーブルカー乗り場に到着。張さんが老人割引

で切符を買ってくれて、はじめてケーブルカーに乗る。6人乗り、フランス技術のキャビンカーだ。降りてから、長城の一角へ。前に遠くから見た場所だ。切り立った崖で長城はつながっていない。下を回る道はつながっているが、こういうデザインなのか、修復されなかったのか不明。

続きの長城を少し上る。風も強くなく、見物日和だ。このあたりは、実戦的に防御設備として有効だっただろうが、平地の長城はシンボリックな意味のほうが強かったのだろう。長城の南の農民と北の遊牧民は、仲良く交易していたところに、中央権力が壁を造って分離したが、仲のいい交流は続いたという話もある。王朝国家にして必要な壁だったに違いない。外敵の存在感で内部を統合統治する手法は、昔のことでもなさそうだ。

ケーブルで降りて、定陵に向かう。ここは中国老人割引しかない。万歴帝の地下宮殿は、前回財布が空で見られなかったところだ。ATMがなく、あり合わせで観光バスに乗った年にぶらついた石の橋などはないで陵の内部へ歩く。檜か柏の緑に囲まれた陵墓だ。人工的な積み石の隙間から生えた樹木が太い根を張っている。

地下宮殿は、紫禁城の一部を移した形の部屋で構成されている。本格的な石積みだから、大きな穴を掘って石積みをしてから埋めたものだろう。盗掘されてはいなかったので、宝物も見事に残っている。1600年前後40数年の在位だから、秀吉の朝鮮侵略のおかげで軍費もかかる中、このような宮殿を造営したことになる。まさに、人民の負担は極限に達した時期だ。明王朝崩壊の直接的な原因を作ったのが万歴帝だ。地上に取り出された宝物の展示博物館は見事だ。繊細な金細工の王冠、凝った刺繍の衣服、金地金等々、人民の膏血だが、職人芸はすごい。

ここで昼食。運転手の宋さんはもう済ませたとかで遠慮。珍しい人だ。この国では、運転手も食卓に着くのが普通なのに。トマトの卵炒め、ジャガイモの炒め、牛肉とタケノコの炒め、干焼豆腐、チャーハン、ビール。チャーハンに炒め物を掛けて食べるのが美味であることを発見。かなりの大盛皿だったので残すが、もったいない。回りの食卓も残飯の山。中国料理は、ロスが多いところが問題だ。どうにか調節は出来ないものか。

長陵へ回る。ここでは張さんが交渉したら入場料が5元ほど老人割引になった。面白い国だ。ここは永楽帝の墓。巨大な木造の拝殿に銅製の永楽帝が鎮座している。日本には永楽銭でおなじみの皇帝だ。定陵出土の金・銀のインゴットなども展示している。長陵の発掘調査はしていないらしい。庭には見事な松の古木がある。南開大学でも見かけた枝先の湾曲した樹は龍爪槐だと判った。

十三陵のある王家の谷への入り口にあたる神道へ行く。ここも神道博物館となっていて入場料をとる。入り口へ向かって逆行するかたちで歩く。柳は枝の緑が濃くなってきた。気温が上がって風が涼しい。文官、武官、麒麟、馬、象などの石像が両側に並ぶ。動物は立像と座像がある。唐獅子の座像はお馴染みだが、四肢で立つ唐獅子は初めて見た。石塔、華表が4本、石碑を納めた建物があって出口＝入り口。華表は円筒の上に龍が置かれ、雲のような石板がはめ込まれた10mほどの石柱で、一種のオペリスクだ。石造文化としてギ

リシャなどに似た感じがある。

4時前にホテル着。2人は農大まで乗って行き、兄貴と部屋に戻る。昨日は開けるのに苦勞したので缶ビールを買ってきた。乾いたのどにビールが美味しい。湿度が低いのでどが渴く国だ。ローヤルゼリーを買って2人が帰宅。ここでも張さんの交渉力で割り引きしてもらえたとのこと。ビールを飲みながら歓談。兄貴が張さんに哲学を講義する間にネットに接続。ランケーブルを繋ぐとホテルのランに入れて、1時間**10**元などの料金を選ぶとネットに繋がる。スピードは速いが、料金は高い。たまったメールを受け、返事を出す。経営史研究所では仕事が待っているようだ。

6時に燕山大酒店へ。李平先生と易友人先生に再会。易先生は予定を変更して都合をつけてくださった。ホテル近くの広州料理店で、焼き子豚、焼き鷺鳥など珍味を楽しむ。いつものように、歯切れのいい現代論をうかがう。現政権の主要人物の髪が黒々しているのは染めているため、中央の決定によるメーキャップとのうわさがあるとのこと。ここもパフォーマンスの国だったとは。インターネットの書き込みは中国国内では読めないが、日本からは読めるので、各種情報が得られるらしい。中国語を読めるようになると面白そうだ。検閲をくぐり抜ける情報伝達によって新知識が国内に入る。壁新聞時代のロコミ情報ネットとは全く異なる情報網時代だから、統治にも細かいテクニックが必要になる。検閲と抑圧では通用しない時代になってきた。

張さんは、いろいろ就職についてのアドバイスを受けている。こっちがお誘いしたつもりなのに北京だからとご馳走になってしまった。日本での再会を約束してお別れ。ホテルで張さんとお別れ。自転車であつてくれたとのこと。論文と就職の成功を祈る。

3月17日（金）

朝食後、大鐘寺へ。全面的な改修工事中。全ての建物と回廊に足場が組んであり、各所で修復作業がおこなわれている。柱、扉の木部は被覆をはがしてセメント状のものを鏝で擦り込むように薄く塗っている。壁は、亜麻のような細い繊維をセメント状のもので押しつけるようにして塗り込む。屋根は、瓦の上に黒セメント状のものを一面に塗り重ねていく。**2008**年までには、きらびやかに輝く姿になることだろう。

世界三大鐘のひとつ永楽帝の鐘のある建物は中に入れる。階段を上って上から見ることはできない。鐘の音のCDを売っている。鐘の楽器の建物も開いていて、ここでもCD音と実演。石の楽器でサクラサクラをおばさんが演奏してくれた。土産物店も開業中で、画家が馬の絵を描いて見せてくれた。**200**元というが買う気はおきない。

あと**100**年は見られないであろう大修復工事をつぶさに見られたのは面白かった。人海作戦で、数十人が働いているが、あの民工たちはどのくらいの日給なのか。**40**元以下に達しないが、オリンピック景気で仕事があるのは悪くない。

となりの書画骨董、貴石の店の集合ビルをちょっと覗く。電気器具デパート前の空き地では青空骨董市。がらくたが並んでいるが面白い。恵子がなにやら見つけて売り手と話し

ている。茶碗がいくらなのか聞いたが判らないと言うので、紙に書いて聞くと **200** 元。いらないと言うと **150** と書き直してきた。恵子にいくらなら買うのかきくと **50** 元だというから **50** と書くと相手は首を横に振る。では帰ろうとしたら急に「OK」と言った。買った後、その後が大騒ぎ。ぞくぞくと陶器を手にした売人が回りを囲む。振り切って横断歩道を歩くが、まだ何か言いながらついてくる。きっと、掘り出し物のあるところに連れていくといていたのだろう。

タクシーで帰室。キャリアカートをボーイに持ってきてもらい荷物を下ろす。支払をしていると、ホテルタクシーと自称する運転手が来た。大きい車を横付けしたので、いくらか聞くと **120** 元という。**100** 元ならと言うと OK。荷物が多いのでちょうど良かった。クラウンの旧型だ。少し英語を話す運転手で、「トヨタ」と言うから国産車かと聞くと輸入車だとの答え。たしかにこの型では、天津製ではない。道は空いていて1時頃に空港着。

チェックイン・カウンターの並ぶところに入る前にパスポートと航空券のチェックゲートがある。カウンターでは日本語で丁寧な案内をしてくれる。窓側を頼んだが満席とのことで中の列3席にする。荷物とボディチェックを受けて、出国手続き。出国表、カスタム申告表、検疫調査表の3枚は、元が持ってきてくれたのにホテルで書き込み済み。

食堂で昼食。3品と炒飯、包子、ビールと水を、キャフェテリア方式で買う。**130** 元というので驚いた。料理皿は **10** 元台だからもっと安上がりと思っていた。レシートを見ると、ホテルで **4.5** 元の青島缶ビールが **35** 元、街で1元くらいのミネラルウォーターが **15** 元もしている。いつか、ミルクが高いのに呆れたことを思い出した。空港はどこでも高めではあるが、これは暴利そのものだ。

時間があるので恵子の買い物を点検する。鼠色地に茜色をランダムに流した井戸形茶碗で新品ではなさそう。埃を拭くときれいな色合いだ。抹茶茶碗であるはずはないから、食器だが、少し重いものの使えそうな茶碗だ。富山さんに見せるとなんというか。

定刻離陸。ハリーポッター、炎のゴブレットを観ながら、ブドー酒を楽しむ。全日空だから酒類サービスがあって良い。ステーキか赤飯のチョイス。昼食をとったばかりだし、硬めのステーキなので大部分は残してしまった。恵子の赤飯は、就航 **20** 年記念食とかで、こっちのほうがまともだ。

追い風が強かったので2時間 **50** 分で成田着。荷物は宅急便に預けて、明日の新幹線切符を買ってから、京成特急に乗る。ふじみ野へ着いてから、鮎を買って **11** 時帰宅。ビールで乾杯。兄貴も元気で良かった。

**2006** 年春の中国への旅、無事終了。